

第52号 (2022-9/10月発行)

# 根郷 寿だより



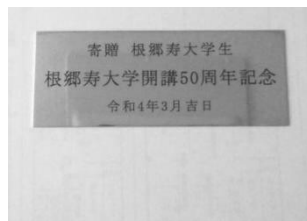
発行 佐倉市立根郷公民館  
〒285-0815 佐倉市城 343-5  
☎ 043-486-3147 FAX 043-486-3686  
E-mail negou-public@city.sakura.lg.jp  
編集 根郷寿大学・根郷寿だより編集委員会

## 【トピックス】 根郷寿大学開講50周年記念品の贈呈

根郷公民館の主催事業である根郷寿大学は、令和2年度に開講50年を迎えましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止から休講となりました。一方、これまで記念すべき50年を迎えるに際し、根郷寿大学受講生よりこれまでお世話になった根郷公民館へ、何か記念となるものを贈りたいと数年掛けて検討が進められていました。令和3年度に根郷寿大学が再開講となったことから、受講生へのアンケート方式による寄贈品選定を行い、「振り子時計」を寄贈することになりました。



開講50周年を記念して今回寄贈された「振り子時計」と下段に貼付された「プレート」



平成5年に寄贈された時計



ところが3月の閉講式当日に予定していた寄贈式は、閉講式が中止となった事から、同じく中止となってしまいました。令和3年度の受講生へは、「修了証書」に添えて根郷公民館長からの「お礼状」が渡されましたが、これまでの卒業生の方々へ「根郷寿だより」を通じてもお知らせしたいと思います。

なお、根郷公民館の玄関脇で、平成5年根郷公民館改築の際に根郷寿大学受講生一同から贈呈された「振り子時計」が、今も現役で”時を刻み”続けていることを申し添えます。

## 「日常生活の現状と根郷寿大学の Vision」

根郷寿大学運営委員会会長 樹村 光雄

殆んどの人が、直近の物価の値上がりには驚きの念を禁じ得ないのではないのでしょうか。約10,000の品目が平均1.4%増の数値を示しております。その値上げの理由は、原

材料・輸送費等々の高騰による逼迫を挙げております。

特に毎日の食事の支度等に頭を悩まされている方々が好むと好まざるとに拘わらず、少しでも安い値段の物を購入しようと工夫なされているのではないのでしょうか。我々の年金も「マクロ経済システム」で4月分から月々9,000円前後控除され、又医療費も1割負担から2割への改定で対象となる方には、正にダブルパンチです。

次に寿大学生の平均年齢は75.3才です。健康保持・増進に配慮し「健康寿命」を少しでも維持しようとする努力を窺い知る事が出来ます。コロナ状況以降2年目を迎えましたが、3年前、4年前は受講生の有志の講義を受け、感動と感銘を受けた方が多数おられたのではないのでしょうか。今迄の人生経験を踏まえてのレベルの高さ、専門の知識、文化、芸術等々あらゆるジャンルに就いて発表なされる事を希望してやみません。

それが自己肯定、思考力、自信をつけ自己改革にリンクするのではないのでしょうか。これからの人生、未来永劫リカレント（再教育）を継続し、時間を慈しみ生きなければ、人生は早送りの様に過ぎ去ってしまうのではないのでしょうか？

## 川柳

四班 犬丸 俊博

1. 親父ギャグ 受けて笑うは 鏡だけ
2. 「おはよう」も 知らぬタヌキの 澄まし顔

「根郷寿だより」の表紙にも使用されている「タヌキの石像」は、公民館の駐車場脇に鎮座しています。二ヶ月毎に受講する「根郷寿大学」でこの像にも忘れられない様（？）に挨拶して公民館に入ります。説明板には、『この「たぬきの石像」は、旧根郷村の飯沼隆治郎さんから昭和4年9月15日に根郷村役場に寄贈されたもので、明朗でユーモアに富んだ像は、子供のように明るく正直で真面目な根郷村民のシンボルとして置かれていました。石の素材は「筑波みかげ」という花崗岩で、公民館が新築されると共に現在のところに移りました。佐倉市立根郷公民館』とあります。

### 「ウイルスについて気になる事」

二班 斎藤 たかし

過日（と言っても大分前の話ですが）、『人間こそウイルスかもしれない』という新聞記事に出合った。今、地球全体が人間を除く他の動物（植物も含む）にとって、見方によっては恐ろしい存在になってしまう。私たちは他の動植物を愛し、犬や猫等もペットとして愛している人も多い。

いずれ人類がこの世にいなくなった後も地球は続く。もしかして生命が存在しなくなるかも知れないのである。コロナ禍、オミクロン等々、全ての生きものにとって、もし私たちがこの地球から離れ他の惑星に行ったら、その星ではどうなっているだろうか？ワクチンを打ちインフルエンザの注射のように、当り前の事をして、楽しみ苦しみの生活を続け一生を終える。その人間がウイルスだって？結論はそれしかないのでは？

### 『あなたは「おみくじ」を信じますか』

七班 渡部 敏夫

私は、昭和22年生まれ、つまり団塊世代の一期生です。この世代の若かりし頃、景気は右肩上りの良き時代であり、就職時も売り手市場であったものです。ただし、高校受験、大学受験は結構きびしかったものです。

今から半世紀前、私の大学生の頃でしたが、学校の単位が思うように取れず、また、当時付き合っていた彼女とも、あまりうまくいわずに悶々としていました。

そんな時の三月の下旬、山梨県見延町の久遠寺に一人、旅に出ました。その晩、宿坊のお坊さん、おかみさんと雑談（悩みごと等々）をして、寢床につきました。翌朝、久遠寺のある七面山に向い、途中、何げなく「おみくじ」を引いたところ、なんと「凶」

が出てしまいました。「エー、おみくじに凶なんてあるの〜〜」。でも、その時「これ以上、悪い時はない」と、心がスッキリと晴れたのでした。兎にも角にも、今が頑張り時だと悟ったのです。最後の大学四年生時は、その後、ずーと学生服で過ごし、何とか卒業できたのです。また、当時の彼女には、都内に戻り次第、将来の伴侶として、付き合うことを誓ったのでした。それが、来年結婚50年を迎える妻となっています。

人生、何が転機になるか、わからぬものですね。あなたは「おみくじ」を信じますか。私は、その後、おみくじは一切引いてはいませんが。

### 「ちょこつと佐倉探訪」

十二班 菊地 洋子

今日で連続7日猛暑日と予報の出ていた7月1日9時半、旧堀田邸駐車場。杖持ちました、帽子被りました、凍らせたペットボトル、リュックに入っています、酸素（持病があるので念の為）詰めました。根郷寿大学12班と歴史ロマンの会有志合同の”ちょこつと佐倉探訪”が菊地さんの案内で始まりました。

先ずは今日、7月1日と決めた理由、樹齢何百年かと思われる大椎の木と共にある鐮木浅間神社の山開きなのです。抱っこされた赤ちゃん、手を引かれた幼児が急坂を登って元気な成長を祈っていました。この子達に明るい未来がありますようにと祈らずにはいられません。そして神社の反対側、今は何の変哲もない駐車場が佐倉宗吾霊堂跡なのだそうです。紆余曲折あって現在に至るのだそうです。細道から大通りを突っ切り勝寿寺、城址公園の姥ヶ池伝説由来のお寺だそうです。続いて松林寺、境内では植木屋さんが暑い中、樹木の剪定、下草刈に余念がありませんでした。佐倉城を築いた土井利勝藩主の父母、夫人の供養塔が道路淵にありました。ここから佐倉高までの道、佐倉高（当時は佐倉中）新築に際し職員・有志で60日間で仕上げたのだそうです。歩みを進め地域交流施設、佐倉高県立移管100周年記念として平成11年に建設されたそうです。週末でないので展示室等は入れませんでした。しばし休憩、涼ませてもらいました。そしてこの日、佐倉高は文化祭（鍋山祭）とか、未来ある若者がクラス毎に発表するのだと張り切っておりました。京成佐倉方面に下る道を教えてもらい……。見えましたが京成トウズの看板、足取りがちょっと軽くなりました。人間現金なものです。京成佐倉駅が110m移設されて現在の場所になったとの話を聞きながら次庄右衛門像、昔即身仏になった人なのだそうです。296沿いに簡易な雨凌ぎ程度の屋根はついていましたが・・・排気ガスに塗れ私と同じく息苦しいのではないかと思います。踏切を渡って宮前側に東福寺がありました。ススキが背丈程伸びてしまい、坐像は埋もれてしまっていました。時代の流れという事でしょうか。でも今日私達が訪ねた事、喜んでくれているのではないかと思います。忘れられるって淋しいですもんね。

11時40分全行程終了、炎天下の中全員無事生還できました。皆様もちょっと地元を見回し探訪してみたいかがでしょうか。

### 「子供の虐待をなくそう」

元根郷寿大学生 廣吉 正毅

先だって、幼児の虐待がマスコミにより報道された。このような事件がたびたび起きて後を絶たないのは深刻な社会問題である。

そもそも虐待の初めは躰や折檻ということらしい。でも、そのうち子供が口答えや態度で反抗し親の言うことが効かなくなる。親はこれに我慢できなくなり、挙げ句の果て子供に当たり散らすようになる。こうなると躰と虐待の区別がつかないだろう。これは子供に不信感を抱かせるだけで躰など出来る訳がない。

そして親は子供に暴力を振るい虐待へとエスカレートする。その後も子供が親に反抗的な態度を続ける限り、暴力と虐待が止むことなく繰り返される。場合によって子供を

死に至らしめる最悪の結果になる。

このような子供の虐待の多くは家庭の中で起きることから、外部にはその実態がほとんど伝わらない。たとえ第三者がそれを知ったとしても、余程でない限りよその家庭のことに口を挿むことは難しい。

ところで、虐待の原因を思いつくままあれこれ考えてみた。母親が産後うつ状態や何らかの病気でストレスを溜め体調不良がある。健全な環境で無いなか、子供が生まれつきの痛癢持ちでこだわりが強い。また先天性の疾患、発達障害などで、親の言うことが良く理解できない。

家庭環境では、失業により家計が苦しく夫婦喧嘩が絶えない。それに夫婦が近所との付き合いが無く孤立している。これらが高じて、積もり積もって虐待へとなるのではなかろうか？ そうなった時に問題を一人で抱え込み悩まないことだ。子供の虐待はいろんなことが引き金になり、どこの家庭にも起こり得る。

親を責めるだけでは子供の虐待は解決しない。親はストレスと孤立で不安や寂しさにさいなまれている。実は愛し守らなければならない子供を虐待すると言う、悲しい現実があったに違いない。周りの人は案外前から何となく気づいており、成り行きを心配げに見ている。

当人はここに至って世間体や外聞など気にする必要はない。近所や地域の信頼できる誰かに相談し知恵を借りる。助言を得て悩みを取り去れば良いと思う。地域には悩める親たちの相談に乗ってくれる、民生児童委員や福祉委員と言った専門家がいる。かれらは地域の問題に敏感に対応してくれる。場合によっては関係機関に連絡してくれるし本当に頼りになる。

子供は国の宝であり子ども無くして国家の未来はない。地域の温かい支えと適切な支援で健やかに育てていきたいものだ。

### 「ねごう歩こう会」 活動紹介・会員募集

共同代表 大越・八木沢

毎月1回(8月を除く)原則として第二火曜日の午前中、健康を目的として主に佐倉市内を散策しています。不定期で年に1回市外の散策も計画しています。

年会費は資料代やレクレーション保険代として500円(4月～翌年3月)徴収しています。

入会ご希望の方は根郷公民館までに9月30日(金)までに連絡ください、折り返し「歩こう会」事務局より必要事項をお伺いします。

参考までに、本会は過去の根郷公民館の講座から立ち上げ、現在寿大学生も何人か入会されています。

### <編集後記> (敬称略)

根郷公民館職員の方々の異動がありました。 (令和4年4月1日付発令)

根郷公民館 館長 富田 健一郎、 主査 岡本 茂幸、 主査補 菅原 久志 (新任)

主査補 柳田 晴生、 事務補佐員 戸田 さよ子

◇齋藤 二三子 (転出)

根郷寿大学で受講する我々の活動をご指導・ご支援を頂いております。続いて、令和4年7月1日付発令で異動がありました。

主査 小那木 理 (新任) ◇岡本 茂幸 (転出)

なお、定例の次号53号は令和4年度閉講式(予定)を開催する来年3月に発行を予定しております。同号への投稿期限は来年1月末とさせていただきますが、原稿は未発表の原稿に限り、投稿期限内に編集委員若しくは根郷公民館に持参して頂くか、電子メールでの投稿にてお願いします。 以上 犬丸 俊博 (記)